

## 報告

### 平成九年度大会の概況

日本思想史学会平成九年度大会は、十月十八日(土)・十九日(日)の両日、岩手大学を会場として開催された。

第一日目は研究発表が行われた。発表者と発表題目は次のとおりである。

- 1、源信の一乗思想―『一乗要決』の視座と一乗教の意義―  
(星美学園短期大学) 島田健太郎
- 2、明恵に於ける菩提心説の展開  
(東京大学大学院) 前川 健一
- 3、慶政における結縁  
(東北大学大学院) 東海林良昌
- 4、浄土宗の地藏信仰―「中世」から「近世」へ―  
(日本学術振興会特別研究員) 清水 邦彦  
(東北大学大学院) 外川 奨
- 5、存覚の思想転回  
(東北大学大学院) 笠井 哲  
(福島工業高等専門学校) 三澤 勝巳  
(大倉精神文化研究所)
- 6、千利休とキリスト教  
(近畿大学) 高坂 史朗
- 7、『徒然草』と近世邦儒  
(東北大学) 中村 安宏
- 8、東アジアの地動説受容の諸相  
(東北大学大学院) 福井佐枝子  
(室鳩巢と赤穂事件・朱子学)
- 9、細井平洲の『管子』牧民の解釈  
(久留米大学大学院) 吉田 洋一  
(愛知教育大学) 前田 勉
- 10、亀井南冥の医学思想
- 11、宣長における「心だに」の論理の否定―垂加神道と宣長の連続・非連続―
- 12、宣長における「心だに」の論理の否定―垂加神道と宣長の連続・非連続―
- 13、「風俗」をめぐるダイアログ―屋代弘賢『諸国風俗問状』について―

14、国学と「文献学」

(大阪大学大学院) 表 智之

15、烏伝神道と神習教―明治期における烏伝神道の変容―

(日本学術振興会特別研究員 畑中 健二  
末永 恵子)

16、近代漢学の成立

(日本学術振興会特別研究員 宇野田尚哉)

17、世紀転換期における「人種」を語る知―坪井正五郎の人種概念をめぐって―

(大阪大学) 松田 京子

18、『海上の道』はなぜ書かれたのか―「固有信仰」論前後の柳田国男―

(大阪大学大学院) 六車 由実

19、和辻哲郎における宗教論の位相―無神論と宗教的多元主義―

(日本大学) 田中 久文

20、大杉栄と八太舟三―近代日本のアナキズム思想―

(岩手大学) 岡崎 正道

21、大川周明の思想―その本質をめぐって―

(東北大学大学院) 昆野 伸幸

22、特操(陸軍特別操縦見習士官)の思想

(久留米工業大学) 山口 宗之

研究発表終了後、総会が行われ、評議員会より平成八年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて評議員より会則改正案、平成九年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員会案どおり決定された。

ひき続き、繋温泉 ひまわり荘において懇親会が開催された。

第二日目は「歴史としての「東北」―今、東北・北東は動いている。「東北」とは何であったか?―そして今「東北」像は如何に形づけられようとしているのか?―その意味を問う。―」をテーマにシンポジウムが行われた。発表者と発表題目、および司会者は次のとおりである。

## 趣旨説明

(同志社大学) 笠井 昌昭

報告

- 1、古代における「東北」像
- 2、「みちのく」像の成立と展開
- 3、安藤昌益における「東北」
- 4、啄木と賢治を通してみた「東北」

司会者

新野 直吉

(北海道教育大学) 佐々木 馨

(愛知教育大学) 三宅 正彦

(盛岡大学) 遊座 昭吾

(東北大学) 佐藤勢紀子

(愛知学院大学) 岡田 千昭

(同志社大学) 沖田 行司

(ノートルダム清心女子大学) 八重樫直比古